



鳥の宝を守り伝えるために



#09

NPO法人
徳之島
虹の会

☎ 0997-86-3575
✉ shimaniji@gmail.com

クロウサギが巣立つまで

秋はクロウサギの繁殖シーズン。
斜面に巣穴を掘って、
そこで赤ちゃんを育てます。



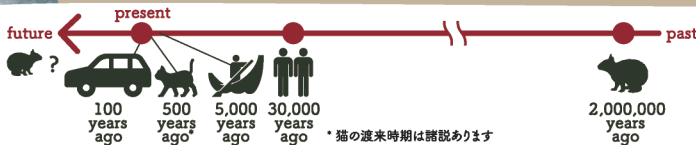
お母さんウサギは、
一度に1匹の赤ちゃんを
産みます。
たまにはふたごが
生まれることも。
人間と同じですね。



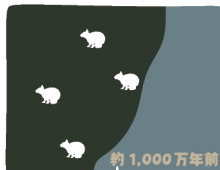
お母さんは子ウサギを守るために、いつもは巣穴をふさいでおきます。
2日に1度、授乳のためにやってきて掘り返してあげます。



約40日間を巣穴で過ごしたら、
もうふさがなくても大丈夫。
子ウサギはお母さんといっしょに外に出て、
葉っぱやどんぐりを食べるようになります。



徳之島が誕生した二百万年前からそこに暮らしていたクロウサギ。人間が暮らし始めてから三万年。そしてここ数百年のあいだに、この島の環境は大きく変わりました。私たちにとっては気づいづらい時間でも、二百万年前から考えたら、ごく最近のことです。船や飛行機で簡単に島の外と行き来できるようになり、猫などそれまで島にいなかった動物が持ち込まれたり、重機で森が切り拓かれ、たくさんのお車が走るようになりました。すべて私たちが変えてしまった環境なのです。この先クロウサギが生き残れるかどうか、この島に暮らす私たちの手に懸かっています。



約1,000万年前



約200~100万年前



現在

い 一千万年前、日本列島はまだユーラシア大陸の一部でした。その後、海底で地殻変動が起こって、海水が流れ込み、小さな島々に分かれていきます。そこに暮らしていたクロウサギたちも、それぞれの島に分断されてしまいました。それから現在までに、クロウサギたちはさまざまな要因によって数を減らしていき、いまでは徳之島と奄美大島でしか見られなくなりました。つまり、この小さなふたつの島に暮らしている彼らが、地球上で最後のクロウサギたちなのです！

アマミノクロウサギ

Pentalagus furnessi (Amami Rabbit)

ほにょうこうとけいもく
哺乳綱兔形目ウサギ科
アマミノクロウサギ属

環境省レッドリスト 絶滅危惧IB類
鹿児島県レッドリスト 絶滅危惧I類
国の特別天然記念物

徳之島・奄美大島のみに生息。
葉や果実などの植物を食べ、
夜間に活動する。



ウサギにしては
みじかい耳

体長 50cm程度
体重 1~3kg程度

山登りと
穴掘りが得意な
するとい爪

ウサギにしては
みじかい足

もっと知りたい! Biology of Amami Rabbit アマミノクロウサギ

世界中で、徳之島と奄美大島でしか見ることのできないアマミノクロウサギ。ウサギの仲間の中でも、原始的な特徴を残しているといわれています。これからもクロウサギとなかよく暮らしていくために、今月は彼らのことを勉強してみましょう。